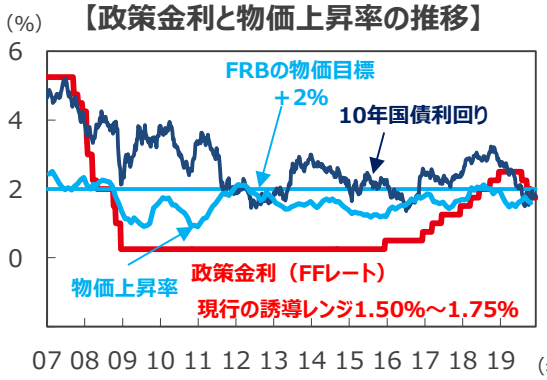
今日のトピック FRBは金利を据え置き。ドットは来年も据え置きを予想 低金利環境が金融市場の追い風に

ポイント1 政策金利は据え置き 市場予想通り

■ 米連邦準備制度理事会（FRB）は、12月10日、11日に開催した米連邦公開市場委員会（FOMC）で、政策金利であるフェデラルファンド（FF）レートの誘導目標レンジを1.50～1.75%に据え置きました。これまで3会合連続で利下げが実施されていましたが、足元の経済指標で米経済の底堅さが示されていたことから、据え置きは市場予想通りでした。

【政策金利と物価上昇率の推移】



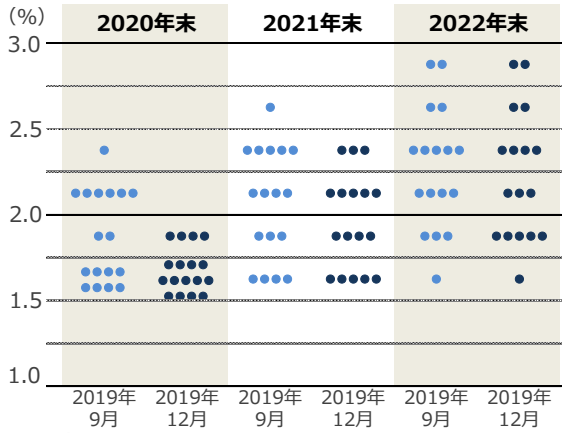
（注1）FFレート、10年国債利回りは2007年1月5日～2019年12月11日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
（注2）物価上昇率は個人消費支出（PCE）コア物価指数の前年同月比で、2007年1月～2019年10月。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 ドットは来年の据え置き示唆 金利引き上げは21年以降か

■ 声明文では、「米国経済は緩やかに拡大している」との判断が維持されました。また、金融政策については「現在のスタンスが適切」とし、FOMC後に行われたパウエルFRB議長の会見でも、当面現在の金利を据え置く姿勢が示されました。

■ FOMC参加者による経済・金利見通し（ドットチャート）では、2020年のドット中央値は1.625%となり、参加者の多くが20年の政策金利据え置きを予想しています。21年は1.875%、22年は2.125%とドットの中央値が緩やかに上昇しています。景気・物価ともに見通しの大きな変更はありませんでした。

【FOMC参加者による政策金利見通し】



（注）横軸はFOMCの開催年月。
（出所）FRBの資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 低金利環境が相場の追い風に

■ 11日の米国市場ではFOMCの結果を受けて株価、長期債が上昇（金利は低下）しました。為替はややドル安・円高となりました。

■ 米国では雇用・消費が堅調な一方、インフレ率は依然としてFRBの目標である2%に達しない水準が続いています。米経済が緩やかな回復基調にある中、インフレ率が上がらない限りFRBは当面現在の低金利を維持すると見られ、金融市場にとって追い風になると見られます。

■ また、今回のFOMCで金融緩和が続くと受け止められたことはドル安の要因ですが、リスクオン下でのドル安のため、大幅な円高に結びつくリスクは低いと見ています。

ここもチェック！
2019年12月10日 吉川レポート：2020年～2021年の世界経済
2019年12月 9日 良好な米雇用統計は日本株にも好材料

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。